

「市長と一緒にティータイム」対話概要

団体名 高須区
実施日時 令和7年11月15日（土）午前9時50分～11時25分
実施場所 高須会館
出席者 高須区 9名
市 3名
テーマ 高須区の基盤整備の計画について

意見交換

高須：高須区は、海拔が低くてまちが狭いという地理的特徴がありますが、市では高須区の特徴をどのように捉えていますか。

市長：袖ヶ浦市内には、内陸部から沿岸部まで様々な地理的特徴を持つ地域があり、昭和地区は海側の土地区画整理が終了し、まちづくりが進展しています。高須区は市街化調整区域ですが、都市計画法に基づき一定の開発行為が認められる連たん区域に指定されています。また、地権者の合意により地区計画を策定し、地域に合ったまちづくりを進めることができます。市の基盤整備の取組としては、都市計画道路西内河高須線の整備という道路整備計画があるほか、住宅の増加に伴い、奈良輪小学校、昭和中学校の児童・生徒数が大きく増加していることから、来年度の供用開始に向け、昭和中学校校舎の増築工事を進めています。市では、高須区は人口が増加している地区と捉えています。

高須：高須区内には道幅の狭い道路が多くありますが、広い道路が新たにできると、子どもたちの交通事故が懸念されます。西内河高須線にはどのような車両の通行を想定していますか。

市長：西内河高須線は2車線で歩道を整備する計画です。特定の車両の通行を想定するものではありませんが、交通量は増加するものと考えています。

高須：道路が完成しても、当面の間は大型車の通行を規制することはできますか。

市長：規制は警察の所管となりますので、市で



行うことはできません。西内河高須線は都市計画道路になりますので、ある程度の交通量の変化はご理解いただきたいですが、子どもたちの安全はしっかりと守る必要があります。

高須：高須区内の道は狭いのですが、道路の拡幅について市の考えを聞かせてください。

市長：道路の拡幅については、地域の皆さんのご理解とご協力をいただき、用地買収を行う必要があります。現在の土地の利用状況などもあり、例えば家を建替える際にセットバックし、道路用地の確保にご協力いただくなど長期間にわたっての整備となり、一気に進めるのは困難です。道が広くなれば交通量は増加するため、賛成・反対両方の意見がありますが、市としては緊急車両がスムーズに通れる道幅の整備を考えていきます。

高須：外国人が増え、交通ルールを守らないなど交通安全の面で問題が出ています。

市長：交通ルールだけでなく、地域生活におけるルールなどについても周知する必要があると考えています。

高須：袖ヶ浦市には警察署がありませんが、今後設置される可能性はありますか。

市長：警察署の設置は難しい状況ですが、本市の治安を維持するため、警察と連携を強化していきます。

高須：奈良輪小学校の通学路が変更になりましたが、通学路以外の横断歩道がない通りを横切るお子さんがいて、非常に危険です。子どもたちの命を守るために、学校でも交通ルールに関する指導を徹底してください。



市長：通学路は、横断歩道がある道路など、安全に登下校できる道路を第一に考えて指定しています。子どもたちの命を守るために、交通ルールの遵守について指導を徹底するよう、教育委員会に改めて伝えます。横断歩道は、警察が道路の見通しなどを判断して設置しますので、市で整備すること

とはできませんが、道路の補修等については、学校等からの要望を受け、市でできるところはすぐ対応し、県道や国道などの場合には、国・県に対し要望するなど、誰もが安心して歩ける環境を整えています。

高須：奈良輪小学校周辺は、上下校時に大変多くの子さんの姿が見られますが、袖ヶ浦市の人口の推移状況はどうですか。



市長：現在、本市の人口は微増傾向ですが、今後は人口減少の局面を迎えます。内陸部では地域コミュニティの維持が難しくなることが想定されるため、県からの開発許可の権限移譲により、これまで家を建てることができなかつた場所にも家が建てられるようにし、コミュニティの維持を図っています。

高須：近隣公園で子どもが遊ぶ光景はとても良いと思います。高須区には公園がありませんが、公園を作ることはできますか。

市長：公園の設置要件は厳しいので、すぐに設置できるものではありませんが、子どもの声がするまちは、活力のあるまちだと考えていますので、地域の皆さんのご協力をいただきながらまちづくりを進めていくよう調査・研究をしていきます。

高須：雨水対策として奈良輪雨水ポンプ場がありますが、想定外のゲリラ豪雨への対応はどのようにになっていますか。また、西側地区のまちづくりが進むと田んぼが無くなりますので、高須区の冠水の発生にも影響を及ぼすと考えています。

市長：奈良輪第一雨水幹線と奈良輪雨水ポンプ場を整備し、1時間あたり50ミリメートルの降雨に対応できるようにしていますので、まずはポンプ場の維持管理を確実に行います。道路の冠水については、落ち葉などの異物により排水溝が塞がることから発生しますので、地域の皆さんのご協力を得ながら対応していきたいと考えています。また、西側地区の治水対策についても検討を進めています。

高須：高須会館の移転の際には、浸水時に避難できるような建物を検討してください。

市長：浸水に関しては、ハザードマップで浸水想定区域を公表していますので、確実に避難所へ避難していただくことが大切です。会館の移転は、他地区との公平性も考慮していきます。

高須：先日、高須区で子どもフェスタを開催したところ、とても活気のあるお祭りになりました。このようなイベントをもっと広めていきたいと思っていますが、市から支援はありますか。

市長：高須区でイベントを開催されるのであれば、規模や実施方法などについても、区の皆さんで相談し、計画していただきたいと思います。

高須：区から退会する人が増えています。また、以前は50歳代の方が区の役員を務めていましたが、50歳代ではまだ現役の人が多いため役員の受け手がなく、最近では70歳代の方が引き受けている状況です。以前とは役員の年齢構成が変化するなど負担に感じる人が増える中、区についてどのように考えていますか。

市長：自治会組織自体は、地域の皆さんの自主的な集まりで組織されるコミュニティであると考えています。市としても、皆さんのご負担を軽減するため、お願いする職の見直しを進めるほか、デジタル化できる部分はデジタルを活用するなどの研究をしています。



高須：市政協力員については、どう考えていますか。

市長：市政協力員の皆さんには、市民の皆さんからのご意見を市にお寄せいただきたり、市から情報を市民の皆さんにお届けしたりするなど、様々な点でお力添えをいただいている。少しでも負担を軽減できるよう検討しており、デジタルを活用することも有効だと考えています。

高須：デジタルは、自ら情報を取に行く人には便利ですが、取りに行こうとしない人には情報が届きません。回覧板は、自ら情報を取に行かなくても

得られるというメリットがあります。

市長：回覧板はプッシュ型の情報発信ですが、皆さんに情報が行き渡るようにするためにはどのような発信方法が良いのか、SNSや動画なども含め、研究が必要だと考えています。現在、市民の皆さんに必要な情報を適切にお伝えするため、HPのリニューアル作業を進めています。

高須：区に加入するメリットがなく退会する人がいます。例えば、区に入るとゴミ袋が安く買える、災害用の物資を自治会経由にする、高須会館利用料に差をつけるなど、区民であることのメリットと区民でないことのデメリットが明確にあるとよいと思います。

市長：まずは区の活動を知ってもらうことが必要だと思います。高須会館の利用料は、区の収益という観点での考え方なので、区民の皆さんで協議いただくことが必要です。



高須：区内に住宅は増えていますが、区への加入者が減っています。また、退会する人も増え、班ごと消滅する場所もあります。現在、市からの情報は区を介さなくてもデジタルで得られますし、ゴミステーションも利用できますので、区に入らなくても何も問題ありませんが、入っていると役員が回ってくるなどのデメリットがあります。

市長：区には、地域コミュニティのつながりが強いと思います。市と区の皆さん何かと一緒に成し遂げていくということは、これまでも、これからも変わらず、地域の皆さんとの繋がりは非常に重要です。防災は誰にとっても重要な課題であり、「自助」・「共助」・「公助」の「共助」はどうしても必要になりますので、地域の皆さんとの共通の課題として捉えていただくと、退会された方々に訴える要素の一つとなると思います。

市長：本日は、皆さんのご意見をお聞かせいただきありがとうございました。